

事務事業マネージメントシート

作成日 平成23年 05月 02日

事務事業名	環境展開催事業				担当	産業環境部 環境課 ごみ減量係		
政策名	D	自然と潤いがある安全快適なまちづくり			電話番号	0285-83-8692		
施策名	03	廃棄物の抑制と適切な処理			<input type="checkbox"/> 実施計画上の主要事業			
基本事業名					事業期間	<input type="checkbox"/> 単年度のみ		
法令根拠						<input type="checkbox"/> 単年度繰返(開始年度 昭和59年度~)		
予算科目	1.一般会計	4.衛生費	2	2		<input type="checkbox"/> 期間限定複数年度(年度~ 年度)		
事業概要	快適な生活環境の保全、資源循環型社会形成を図り、3R運動を推進するため、毎年11月23日に消費者まつりと合同で環境展を開催している。 ・環境学習啓発用パネル展示 ・機械式生ごみ処理機の展示 ・リサイクル品の展示・抽選会 ・地球温暖化クイズ ・フリーマーケット・古本の販売 ・もおか環境パートナーシップ会議の活動報告及び会員募集							
	(シートの中の各年度の事業実績のうち、19年度、20年度については、合併前の旧真岡市の実績を記載しています。)							

1. 現状把握の部 (1) 事務事業の目的と指標

①手段(主な活動)	⑤活動指標(事務事業の活動量を表す指標)の推移							
	名称	単位	19年度(実績)	20年度(実績)	21年度(実績)	22年度(実績)	23年度(見込)	
22年度実績 ・11月23日の「消費者まつり」に環境展・フリーマーケットを開催 ・広報紙に掲載	ア 入場者数(環境展)	人	約20,000	約20,000	約25,000	約25,000	約25,000	
23年度計画 ・平成22年度と同じ	イ チラシの発行部数	部	37,600	37,600	42,600	42,600	42,600	
	ウ							
	エ							
	オ							
②対象(誰、何を対象にしているのか)*人や自然资源等 ・市民	⑥対象指標(対象の大きさを表す指標)の推移							
	名称	単位	19年度(実績)	20年度(実績)	21年度(実績)	22年度(実績)	23年度(見込)	
ア 人口	人	66,808	67,001	82,997	82,584	82,126		
イ								
ウ								
エ								
オ								
③意図(この事業によって、対象をどう変えるのか) ・ごみの減量・資源化意識の啓発	⑦成果指標(対象における意図された対象の程度)の推移							
	名称	単位	19年度(実績)	20年度(実績)	21年度(実績)	22年度(実績)	23年度(見込)	
ア 入場者数/人口	%	29.9	29.9	30.1	30.3	30.4		
イ もえるごみの排出量	t			19,541	19,443	19,500		
ウ								
エ								
オ								
④結果(どんな結果(上位施策)に結びつけるのか) ・ごみの減量・資源化の推進	⑧上位成果指標(結果の達成度を表す指標)の推移							
	名称	単位	19年度(実績)	20年度(実績)	21年度(実績)	22年度(実績)	23年度(見込)	
ア きれいなまちを感じている市民の割合	%	68.3	73.2	73.4	74.0	74.0		
イ 一日の1人当たりのごみ排出量	kg			826	812	818		
ウ 資源化率	%			15.3	14.5	14.4		
エ								
オ								
(2) 総事業費の推移								
投 入 量	事業費	国庫支出金	千円	0	0	0	0	0
	財源内訳	県支出金	千円	0	0	0	0	0
		地方債	千円	0	0	0	0	0
		その他	千円	0	0	0	0	0
		一般財源	千円	50	50	50	94	0
		事業費計(A)	千円	50	50	50	94	0
	人件費	正規職員従事人數	人	10	10	15	15	0
	延べ業務時間	時間	255	255	300	300	0	
	人件費計(B)	千円	1,068	1,065	1,217	1,280	0	
	トータルコスト(A)+(B)	千円	1,118	1,115	1,267	1,374	0	
(3) 事務事業の環境変化・市民意見等								
①この事務事業を開始したきっかけは何か? いつごろどんな経緯で開始されたのか。	リサイクル意識の啓発のため、昭和59年度から、大産業祭の中で開始された。							
②事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法等)はどう変化しているか、開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか?	・地球温暖化など環境に対する関心が高まっている。							
③この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか?								

2. 1次評価の部 *原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的妥当性評価	①政策体系との整合性 ・この事務事業の目的は、市の政策体系に結びつくか? ・意図することが結果（上位施策）に結びついているか?	<input type="checkbox"/> 結びついている <input type="checkbox"/> 見直し余地がある ・環境の保全に対する意識の高揚を図ることは、市の施策に結びつく。 ・ごみの減量化・資源化を推進することは、「廃棄物の抑制と適正な処理」に結び付く。
	②公共関与の妥当性 ・なぜこの事務事業を市が行わなければならないのか? ・税金を投入して達成する目的か?	<input type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 見直し余地がある ・環境保全の啓発は、市の責務である。 ・ごみ（一般廃棄物）処理は、法律で市町村が行う事務と定めている。
	③対象と意図の妥当性 ・対象を限定・追加すべきか? ・意図を限定・拡充すべきか?	<input type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 対象を見直す必要がある <input type="checkbox"/> 意図を見直す必要がある ・市民を対象にしている。 ・ごみの減量化・資源化には、市民の意識の向上が必要である。
有効性評価	④成果の向上余地 ・成果を向上させる余地はあるか? ・成果の現状水準とあるべき水準の差異はないか? ・何が原因で成果向上が期待できないのか?	<input type="checkbox"/> 向上余地はない <input type="checkbox"/> 向上余地がある ・全市民を対象にしているので、向上余地はない。
	⑤廃止・休止の成果への影響 ・事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は?	<input type="checkbox"/> 影響がある <input type="checkbox"/> 影響がない ・環境に関する意識付けのPRの場を失う。
	⑥類似事業との統合や連携の可能性 ・他に、類似の形態の事務事業はないか?	<input type="checkbox"/> 類似事業がある（類似の事務事業名を記載） <input type="checkbox"/> 類似事業はない
	・類似事業がある場合、その事業と統合したり連携を図ることができるか?	<input type="checkbox"/> 他の事業と統合・連携ができる <input type="checkbox"/> 他の事業と統合・連携できない
効率性評価	⑦事業費の削減余地 ・成果を下げずに事業費を削減できないか? (仕様や工法の適正化、住民の協力など)	<input type="checkbox"/> 削減余地がない <input type="checkbox"/> 削減余地がある ・環境学習啓発用パネルが手作りなど、必要最小限の経費である。
	⑧人件費（延べ業務時間）の削減余地 ・やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか? ・成果を下げずにより正社員以外の職員や委託でできないか (アウトソーシングなど)	<input type="checkbox"/> 削減余地がない <input type="checkbox"/> 削減余地がある ・最小限の人件費である。
公平性評価	⑨受益機会・費用負担の適正化余地 ・事業の内容が一部の受益者に偏って不公平ではないか? ・受益者負担が公正・公平になっているか?	<input type="checkbox"/> 公正・公平である <input type="checkbox"/> 見直し余地がある ・受益者負担はない。

3. 改革・改善方向の部

(1) 改革の方向性（改革案・実行計画）	<input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 見直し (<input type="checkbox"/> :目的妥当性 <input type="checkbox"/> :有効性 <input type="checkbox"/> :効率性 <input type="checkbox"/> :公平性) <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 継続	(3) 改革・改善による期待成果
(2) 改革、改善を実現する上で克服すべき課題は何か？それをどう克服していくか？		

4. 事務事業の2次評価結果（事業の総括と事業の方向性）

(1) 1次評価結果の客観性と出来具合	<input type="checkbox"/> 記述説明不足（説明責任不充分） <input type="checkbox"/> 評価内容が客観性を欠く <input type="checkbox"/> 評価内容は客観的と言える	(5) 改革・改善による期待成果
(2) 2次評価者としての評価結果	①目的妥当性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ②有効性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ③効率性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ④公平性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり	
(3) 2次評価者として判断した今後の事業の方向性	<input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的絞込み <input type="checkbox"/> 目的拡充 <input type="checkbox"/> 事業統廃合 <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善 <input type="checkbox"/> 予算削減 <input type="checkbox"/> 予算増大 <input type="checkbox"/> 現状維持（従来通りで特に改革改善をしない）	
(4) その他2次評価会議で指摘された事項		